

足立区教育委員会会議録

会議名	平成28年第11回足立区教育委員会定例会					
開会月日	平成28年11月30日(水)	場所	教育委員会室			
会議時間	(開会) 午前・ 午後 5時00分		～	(閉会) 午前・ 午後 5時29分		
休憩時間	① (休憩) 午前・午後 時 分 ～		～	(再会) 午前・午後 時 分		
	② (休憩) 午前・午後 時 分 ～		～	(再会) 午前・午後 時 分		
委員 の 出席	教育長	定野 司	出席	委員	杉田 直子	出席
	委員	小川 清美	出席	委員	小池 康之	出席
	委員	葉養 正明	出席	出席者5名、欠席者0名		
出席 議員 の 発言	宮本 博之	学校教育部長	出席	鳥山 高章	子ども家庭部長	出席
	杉岡 淳子	教育政策課長	出席	上遠野葉子	子ども政策課長	出席
	太田 照生	学校適正配置担当課長	出席	金子 俊之	待機児ゼロ対策担当課長	出席
	向井 功至	学校経理課長	出席	松野 美幸	子ども施設整備課長	出席
	浮津 健史	教育指導課長	出席	森田 剛	子ども施設運営課長	出席
	斎藤 一裕	学校指導担当課長	出席	千ヶ崎嘉彦	子ども施設入園課長	出席
	稲本 望	学校施設課長	出席	寺島 光大	青少年課長	出席
	山田美砂緒	学校改築担当課長	出席	今井 伸幸	こども支援センターげんき所長	出席
	渡辺 隆史	学校改築担当課長	出席	西野 知之	教育相談課長	出席
	渡邊 勇	学務課長 おいしい給食担当課長	出席	高橋 徹	こども家庭支援課長	出席
	須原 愛記	学力定着対策室長	出席	伊藤 良久	生涯学習振興公社事務局長	出席
	森 太一	学力定着推進課長	出席			
	飯塚 尚美	就学前教育推進課長	出席			
書記	清水 均	庶務係長	栗原 威夫	庶務係主査	秋元 康裕	教育政策担当係長
	田巻 正義	教育政策担当係長	佐々木 直	教育政策担当係長	小室 晃	管理係長
傍聴者	1名					
会議に付した議題	別紙、会議次第の通り。					

平成28年11月30日

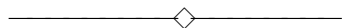
第11回足立区教育委員会定例会

午後5時開会

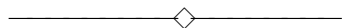
○教育長 ただいまから、本年第11回足立区教育委員会定例会を開会いたします。

本日の出席委員数は、定足数であります。よって会議は成立いたします。

それでは、これより審議に入ります。



○教育長 初めに、本日の会議録署名員の指名をいたします。葉養委員、杉田委員を指名いたしますので、よろしく願います。



○教育長 それでは日程第1、教育長報告を議題といたします。

今回は、各担当からの報告事項に代えさせていただきます。質疑等は全ての報告が終了してから、まとめて願います。

初めに①について、杉岡教育政策課長、お願いします。教育政策課長。

○教育政策課長 恐れ入ります。教育委員会報告資料の1ページをお開きくださいませ。

件名、所管部課名は記載のとおりでございます。足立区立大谷田小学校開かれた学校づくり協議会会長、同校校長名の連名により、「足立区学校運営協議会設置校指定申請書（再指定分）」が提出されました。

内容の検討並びに協議会会長、学校長との協議を踏まえて、下記のとおり引き続き学校運営協議会を置く学校（コミュニティ・スクール）として再指定させていただくので、報告するものでございます。

足立区立大谷田小学校指定期間並びに学校運営協議会の委員の任期は記載のとおりでございます。参考までに現在10校、コミュニティ・スクールの指定をしてございますので一覧にさせていただきます。

今後の方針です。学校・地域・保護者、この3者の思いが合致した学校から、順次学校運営協議会を設置させていただきます。

報告は以上でございます。

○教育長 次に②について、浮津教育指導課長、お願いします。

教育指導課長。

○教育指導課長 ②、平成28年度第1回「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査」、いわゆるhyper-QUの結果について。一番後ろに記載している別添資料1をご覧ください。

hyper-QUに関しては、これまで学級担任の感覚で判断していたものを数値等で明らかにすることで、より学級の分析をしていこうというものでございます。

左側は「学級の型の傾向」ということで、幾つか傾向がございますけれども、小学校においても、中学校においても、学級がよりよい状態の親和型というものが42%で多いと、中学校は44%ということですよ。

ただしこの親和型の中でも、ここら辺が担任に理解させていくところですけども、要は仲がいいというような親和型の中でも、当然浮いてしまう子は何人か出てきますので、そういう子に注意をしていきなさいということを実体的に、今指導を入れているところです。

例えば管理型。管理型に関しては、クラスの中で一見統率がとれているようですけども、やはり意識をしていかないと子どもの中の序列化につながってしまっ、順位づけができてしまうというところ。担任の先生方が分析した結果、親和型が例えば管理型になった場合は、そういう点に気をつけるように指導しているところです。

真ん中2段目のところ、小学校6年生の27年から28年の変容ですけども、担任が自分の学級の型を理解することで、いろいろ手を入れることで、27年より28年のほうが凝集性が高まっていくというような傾向が見えています。今後それを継続させていきたいと思っています。

右側の小学校に関する成果としては、満足度は全国平均を上回っているというところが見られます。ただ、「●課題」のところですけども、学習意欲にかかわる項目が全国平均を下回っているか、全国平均レベルというところが見られます。

中学校に関しても、友人関係、教師の関係が全国平均を大きく上回っておりますが、やはり学習意欲が低いというところですよ。

これに関しては、現在区の学力定着状況調査等と、このhyper-QUをうまくリンクさせることを準備しておりますので、そういう中でhyper-QUと学力調査の結果をうまく重ね合わせることで、また支援ができてくると思っています。

おおむね、教員の感覚論から、数値をもとにした学級分析・児童分析に大きく役立っていることが見えてきているところでございます。

私からは以上です。

○教育長 続いて③について、稲本学校施設課長、お願いします。

学校施設課長。

○学校施設課長 お手元の資料3ページをお開きください。件名、所管部課名については記載のとおりでございます。

新田学園につきましては、これまで児童数の数値を予測しておりましたが、運動施設に関する検討が不足していたところでございます。これにつきましては、まことに申しわけない次第でございます。

こうした中、最近の開発による、また新たな大型マンションが完成するという情報をつかみましたので、改めて児童等の数と学級数の見込みをもとに、対応策を検討することといたしました。

児童数と学級数の見込みでございますが、28年度現在約1,500人、47学級。そして、33年ごろがちょうどピークになりますが、2,200人余、そして学級数63クラス。今と同じ1,500人、47クラスになるのが、12年後の大体平成40年ごろという見込みを改めて立てているところでございます。

こちらの大型マンションというのは319戸、これが新田一丁目に、来年9月に入居を開始する予定でございます。

次に、体育授業時数でございますが、これにつきましては記載のとおり、現在が28年、47クラスあるとすると、1週間当たり136時間、週当たりを使うという計算でございます。

これがピーク時には182時間、そして平成40年には、今と同じく139時間程度という見込みを立ててございます。これは、運動施設5カ所での記載でございますが、新田学園第一校舎につきましては、校庭は有効面積で約4,500㎡ございます。こちらが2面使用。それから体育館

が約980㎡ございます。こちらも約2面を利用できる。これで4面ございます。

そして、新田学園第二校舎には体育館が1つ、約500㎡ございます。これを含めて5カ所。これに対して28を掛けますと、1週間当たり約140時間運動できるところが確保できるということでございます。

対応策でございますが、教室につきましては最大、転用も含めて77クラスをご用意しているのですが、運動施設につきましては、授業時間数を確保できないような状況が今後出てくるということでございます。

学校関係者や地域住民と協議して、新田さくら公園、第一校舎の南に位置してございますが、こちらの一部利用など、あるいは近隣の荒川の土手とかいろいろなところの公共用地があれば、こうしたものの活用の検討を今後していくということでございます。

今後の予定につきましては、保護者、PTA、地元の町会・自治会への周知・説明、当然開かれた学校づくり協議会、まちづくり協議会への周知・説明、近隣への説明・周知を図ってまいりたいというところです。丁寧に説明し、理解を得ながら、最終的な対応策を決定していくというところです。

私からは以上でございます。

○教育長 次は④について、渡邊学務課長、お願いします。学務課長。

○学務課長 それでは、資料の4ページをご覧ください。件名、所管部課名は記載のとおりでございます。足立区育英資金でございますけれども、こちらは一部償還免除型など設置するなどを行っているところでございますけれども、今後新たに持続可能性を担保しつつ、区民ニーズに沿った利用しやすい制度とするために、改めて検討を行うものでございます。

委員構成といたしましては、学識の方が2名、それから高校の校長先生、中学校の校長、それから中学校のPTA代表、あと区の職員3名でございます。

学識の方につきましては、小林先生は、今まで国のいろいろな育英資金について検討会に入っている方でございます。田中先生は、足立区の基本構想審議会の委員ということで、足立区の状況もよくわかっていらっしゃる方と考えております。

第1回の検討会は12月7日に行う予定でして、主な議題につきましては記載のとおりでございます。6月まで月に1回ごとに開催いたしまして、2月ごろに第3回を行いまして、そこで中間報告を行い、最終的には6月に最終報告をしたいと思っております。その中間報告のときに、予算を伴わないものであるとか、すぐにできるものについては速やかに改正をしていきたいと考えております。

私からは以上でございます。

○教育長 次に⑤について、森学力定着推進課長、お願いします。

学力定着推進課長。

○学力定着推進課長 5ページをご覧ください。件名、所管部課については記載のとおりでございます。

この中で、早稲田大学野口晴子教授ほか4名の研究者の共同研究の実施に伴い、足立区が保有する行政データの提供等の協力要請がございました。

教育委員会が保有する情報を提供するに当たりまして、各研究者が所属する各大学とそれぞれ基本協定を締結することになったので、報告するものであります。

概要でございますけれども、(2)にありますとおり、各所管が保有しております8種類の情報データを総合的に分析いたしまして、足立区の取り組みが子どもの学力向上とか、あるいは体力向上にどのような成果・効果があったのか等の定量的な検証を行うとのことでございます。

2番でございますけれども、研究のテーマ、研究者氏名は記載のとおりでございます。この協定の締結時期でございますけれども、28年12月中旬を予定してございます。

6ページでございます。今後の予定でございますけれども、この28年12月下旬から29年3月末にかけて、個人の特定につながる情報を匿名化処理いたしまして、その後データを提供するというふうにいたします。

そして研究機関においては、29年度から30年度に分析と研究を進めて、成果の発表については30年度末を予定しているということでございます。

私からは以上でございます。

○教育長 続いて⑥について、森田子ども施設運営課長、お願いします。

子ども施設運営課長。

○子ども施設運営課長 それでは、資料の7ページをご覧ください

ださい。件名、所管部課名は記載のとおりです。

平成28年9月21日に報告いたしました「区立保育園における保育に有効な面積の不足」への対応について報告するものでございます。

記載しております民営化予定の3園、弘道保育園、第二日ノ出町保育園、大谷田第二保育園につきましては、民営化開始年度までに段階的に定数変更を行ってまいります。

定数変更により減少した分への対応として、当該保育園の存在する地域、または利用者が存在する地域内において、認可保育所等の民営施設の整備をしております。これによりまして、当該地域全体で減少分を上回る保育定数を確保できる見込みです。

7ページ1番の弘道保育園を例に説明いたしますと、(2)のアの表でございます。平成29年4月1日の定数増減でございますが、弘道保育園の定数が2歳でマイナス6となります。その下の欄ですが、弘道保育園の存在する地域内に認可保育所を整備し、この表の一番右でございますが、65名の定数を増やします。

またその下の欄でございますが、小規模保育の整備で19名の定数を増やします。よって弘道保育園のマイナス6を含めましても、表の右下に記載しております78名の定数を増やすこととなります。

同様にイの表でございますが、平成30年4月1日の定数増減では、弘道保育園のマイナス4を含めても表の右下にありますとおり、86名の定数を増やしていきます。

以下8ページ以降、2番の第二日ノ出町保育園、3番の大谷田第二保育園も同様に対応してまいります。

今後の方針でございますが、保育需要等の状況により、足立区待機児童解消アクション・プランにおいて、地域を未定としている施設の当該地域への整備を検討してまいります。

また、上記3園以外にも直営区立保育園において有効面積の調査を行い、定数減少となる場合はアクション・プランの改定等で対応してまいります。

私からの報告は以上です。

○教育長 次に⑦について、松野子ども施設整備課長、お願いします。

子ども施設整備課長。

○子ども施設整備課長 それでは、10ページをお開きくだ

さいませ。件名、所管部課名は記載のとおりでございます。

公立保育園の民営化計画に基づきまして、平成30年4月から民営化する区立保育園の弘道と大谷田第二につきまして、審査会の答申を受けて下記のとおり運営予定事業者を選定したので、ご報告申し上げます。

審査会を11月11日に実施いたしました。審査内容ですが、第一次審査は書類審査、第二次審査はプレゼンテーションと園長予定者のヒアリングを実施してございます。

運営予定の事業者でございますが、弘道保育園は社会福祉法人樹、流山市の事業者でございます。既に認可保育園3園の実績がございまして、またグループの社会福祉法人等での実績などもございます。土地を区からの無償貸し付け、それから建物は区からの無償譲渡という形になります。

それから大谷田第二保育園につきましては、学校法人小泉学園。こちらは足立区内の幼稚園を展開している法人でございます。東京いずみ幼稚園を運営されております。民営化の手法としましては、土地はURの土地でございますので、こちらを無償の貸し付けで、建物は区からの無償譲渡という形になります。

今後のスケジュールでございますが、本年12月以降、3者の打ち合わせを行いまして、29年4月からは、引き継ぎの保育を1年かけて行いまして、30年4月にスムーズに移行が進むように努めてまいります。

審査結果は、11ページに掲載させていただいておりますのでご覧くださいませ。

今後の方針ですけれども、スムーズに移管して、保育園を利用する保護者の方、それからお子様が安心して保育のサービスを受けられるようにというのが一番のことでございますので、これをモットーに進めてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○教育長 次に⑧について、高橋こども家庭支援課長、お願いします。

こども家庭支援課長。

○こども家庭支援課長 私からは、12ページをお開きいただければと思います。

件名、所管部課名は表記のとおりでございます。

ことしの5月、児童福祉法等の一部を改正する法律が国会で可決されたことに伴いまして、児童相談所の移管に向

けて特別区長会における検討状況について報告させていただくものでございます。

まず特別区長会の方針ですが、改正法により国が5年間を目途に設置に関する支援等の必要な措置が講じられている間に、準備が整った区から順次児童相談所の設置を目指すというものでございます。

区長会全体における検討状況でございますが、(1)児童相談所移管準備に係る区長会の検討体制ということで、児童相談所移管準備連絡調整会議を副区長会のもとに設置いたしまして、事務局として特別区長会事務局内に児童相談所移管準備事務局を設置しております。

(2)検討の経緯でございますが、7月19日に第1回、10月27日に関係部課長会・希望区からの資料の取りまとめという形で、まとまったような段階でございます。

検討結果でございますが、(3)のアの部分です。「児童相談所を移管するに当たっての課題の抽出・整理」という形で「各区課題」と、区共通の検討課題としての「共通課題」と、東京都と協議すべき課題ということで、「都協議課題」という3分類で整理しております。概要につきましては、13ページのとおりでございます。

次に「イ、児童相談所の移管に向けた具体化の検討」ということで、希望区における検討状況、希望する22区で移管後の体制だとか、あとは児童相談所設置市の事務の実施方法等々について検討をした結果が、14ページ、15ページの状況でございます。

13ページの概況についてお話しさせていただきます。児童相談所を移管するに当たっての課題の概要ということで、左下のところで各区の課題としては240項目、23区共通の課題としては146項目、都協議課題としては153項目上げられているところでございます。

各区の課題としては、組織をどうするのだとか、児童相談所の建物をどうするのか、あと職員をどういう構成・人数でということ。共通課題としては、職員の確保・活用。例えば採用をどうするのかとか、人事交流をどうしていくのかという点。あと、共通の児童相談システムを入れるのかどうかというあたりが共通の課題です。

都・区で協議しなければいけない課題としては、立ち上げ支援の部分、設置後の連携に関する事項、施設に関する事項、最後に関係経費の財源の移譲方法というようなこと

ろでございます。

続きまして14ページ、15ページの概要でございますが、主に検討した項目ですと14ページの3の部分、児童相談所の職員の確保、人材育成はどうしていくのかという部分、その右のところ、一時保護所をどういうふうな形で持つのか。

次のページの5、児童相談所、一時保護所の施設整備をどうしていくのか、6、社会的養護、いわゆる施設とか里親についての拡充についてどう考えていくのか等々、9項目についてまとめたものという状況となっております。

12ページに戻っていただきまして、今後の状況でございますが、特別区長会におきましては、全体のロードマップを整理した上で東京都と協議に当たるという方向となっております。

今後、随時そうした状況につきまして報告させていただきたいと思っております。

私からは以上です。

○教育長 ただいま8つの報告事項がありました。各委員から質疑、ご意見を求めたいと思います。何か質疑はありますか。いかがですか。

葉養委員。

○葉養委員 ちょっと伺いたいのですが、学校選択制のお話を伺ってからのほうがよかったのですけれども、このコミュニティ・スクール指定校の一覧がありますね。小学校と中学校が並んでいるのですけれども、このコミュニティ・スクールに指定されている小学校については、17ページの選択制の応募状況のところを見て募集人員・受入可能人数と応募人数の計を対比していくと、全部内枠の形になっているという。

つまり何を聞きたいかということ、選択制のほうの中身をどう読み取るかということとの関係で、このコミュニティ・スクールに指定してほしい学校というのは、どういう類いの学校であるかという、そこら辺の背景を教えてください、あるいはそういう分析を教育委員会でもしされていけば、教えていただきたい。

○教育長 教育政策課長。

○教育政策課長 今、委員ご指摘のコミュニティ・スクールよりも先駆けて、足立区の場合は平成14年から開かれた学校づくり協議会の設置をしてございます。

現在全校、小・中学校105校でこの開かれた学校づくり協議会を行っておりますけれども、その中からこのコミュニティ・スクールの、いわゆるメリット、人事権者に教職員配置の意見を言う。それから学校の運営に関して評価をする、承認をするという機能。それをきちんと、この開かれた学校づくり協議会の委員の方々がこれを認識して、さらに開かれた学校づくり協議会から進化して、足立区の場合はこの開かれた学校づくり、「開かれ型CS」という形で、開かれた学校づくり協議会をやりながら、コミュニティ・スクールの指定をされているといった経緯がございます。これが前半のご質問かと思えます。

分析については、まだ詳細な分析はしてございません。むしろ、この間11月17日に開かれた学校づくり協議会フォーラムを開催させていただきましたけれども、これまでの教育委員会として、コミュニティ・スクールのメリットのPRが少し不足していたという反省に基づいて、今回パネルディスカッションをさせていただきました。

なので、分析を含めて今後もう少し教育委員会として、この「開かれ型CS」も進めながら、文科省が進めていまずコミュニティ・スクールのよさ、メリットも含めて周知させていただきたいと考えております。

○教育長 よろしいですか。

ほか、いかがですか。

小池委員。

○小池委員 すみません、hyper-QUについてなのですが、学校で学級経営の上手なというか、学級が安定している担任はよくこういうデータを活用しながら、不満足分にいる子どもをどうやっていいほうに入れようかという、そういう術を持っていて、それを自主的にやっていけるのですけれども、そうではない担任は、こういう結果もなかなかよく出てこなくて、また、その改善の仕方がよくわかっていないという部分があるので、ぜひ校内で、学年だけではなく、1年生から6年生までのデータを見て、そして研修会なり報告会なりをしながら年度ごとに、どうしたら自分の学級の、この不満足分が満足分になるとか、そういう研修会を持つようなシステムを教育委員会の中で持っていただけならばという要望です。

よろしくをお願いします。

○教育長 教育指導課長。

○教育指導課長 実はhyper-QUに関しては、今、小池委員がおっしゃったように、校内委員会を立ち上げるということを前提しております。

それはやはり、担任だけが分析をして、納得してということではなく、学校全体の子どもという視点で捉えていこうということですので、また内容等を整えて、区の研修に位置付けられるようなものがありましたら、積極的に研修会を進めてまいりたいと思います。

○教育長 よろしくお願ひします。

ほか、いかがでしょうか。

葉養委員。

○葉養委員 足立区における学力向上施策等の効果検証の案件ですけれども、これはこういう研究をやっていただいて、データを提供するというのは非常にいいことだと思うのですが、野口先生というのは経済学者の方ですよ。

対照事例を設けていると思うのです。足立区だけではなく、幾つかの対比できるケースを必ず用意している、一般化しないといけないから。

そうすると、足立区だけの分析ではなく、対照した場合、足立区の特徴がどう出るかとか、そこまでのデータ提供を、終わったときにしていただくようなことをお願いするというのはできないかどうか。

多分かなり数値的に、経済学者ですから計量分析という形の数字でわあっと出てくるのではないかと思うので、足立区だけで見てもなかなか読み取れない可能性があるもので、そういうのはお願いできるのですか。

○教育長 学力定着推進課長。

○学力定着推進課長 今のご質問でございますけれども、まず1つは足立区だけかどうかという話は、足立区だけと聞いておりますので、ほかの自治体の話については聞き及んでおりません。

そしてこの調査結果につきましては、きちんと足立区へ還元してくれるということですので、委員のご指摘にあったことは叶えられるかと思っております。

○教育長 よろしいですか。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告事項を終了いたします。

その他も無いようですので、以上をもちまして本年第1

1回足立区教育委員会定例会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

午後5時29分閉会

平成28年第11回
足立区教育委員会定例会

日 時 平成28年11月30日 水曜日 午後5時開議
会 場 教育委員会室

1 議事日程

頁

日程第1 教育長報告

2 報告事項

- ① 足立区立大谷田小学校の学校運営協議会設置校の再指定について
《杉岡 教育政策課長》… 1
- ② 平成28年度第1回「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査
(hyper-QU)」の結果について
《浮津 教育指導課長》及び別添 … 2
- ③ 新田学園の児童・生徒数の増加に伴う対応策について
《稲本 学校施設課長》… 3
- ④ 足立区育英資金検討委員会の設置について
《渡邊 学務課長》… 4
- ⑤ 足立区における学力向上施策等の効果検証に伴う行政データの提供に関する協定
の締結について
《森 学力定着推進課長》… 5
- ⑥ 区立保育園における保育に有効な面積の不足の対応について
《森田 子ども施設運営課長》… 7
- ⑦ 足立区立保育園の民営化に伴う運営予定事業者の選定について
《松野 子ども施設整備課長》… 10
- ⑧ 児童相談所の移管に向けた検討状況について
《高橋 こども家庭支援課長》… 12

3 情報連絡事項

- ① 平成29年度新入学児童・生徒の区立小・中学校希望選択応募状況
最終集計表の公表について [学務課]…16
- ② 日光林間学園の消防用設備工事に伴う休館について [学務課]…19
- ③ 大仙市教育専門監の派遣指導及び講演会の実施について [学力定着推進課]…20
- ④ 事業実施報告・実施予定 [青少年課]…21
- ⑤ 「きかせて子育て訪問事業」進捗状況について [こども家庭支援課]…24
- ⑥ 行事实施結果・実施予定 [生涯学習振興公社]…25

教 育 委 員 会 報 告

平成28年11月30日

件 名	足立区立大谷田小学校の学校運営協議会設置校の再指定について																						
所管部課名	学校教育部 教育政策課																						
内 容	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5及び足立区学校運営協議会規則第3条に基づき、大谷田小学校開かれた学校づくり協議会会長、同校校長の連名により、「足立区学校運営協議会設置校指定申請書（再指定分）」が提出された。</p> <p>指定申請書等の提出書類の検討、ならびに協議会会長、学校長との協議を踏まえ、同校を足立区学校運営協議会規則第3条第1項に掲げる事項を達成することのできる学校であると判断し、下記のとおり学校運営協議会を置く学校（コミュニティ・スクール）として再指定することを決定したので報告する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>①指定した学校 足立区立大谷田小学校</p> <p>②指定期間 平成29年2月1日から平成33年1月31日まで（4年間）</p> <p>③学校運営協議会委員の任期 平成29年2月1日から平成31年1月31日まで（2年間）</p> <p>《参考》コミュニティ・スクール（CS）一覧</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">〔学校名〕</th> <th style="text-align: center;">〔指定日〕</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>大谷田小学校</td><td>平成25年 2月 1日</td></tr> <tr><td>平野小学校</td><td>平成25年 3月 1日</td></tr> <tr><td>西新井第二小学校</td><td>平成25年 5月 1日</td></tr> <tr><td>弥生小学校</td><td>平成25年 9月 1日</td></tr> <tr><td>西新井第一小学校</td><td>平成26年 9月 1日</td></tr> <tr><td>弘道小学校</td><td>平成27年12月 1日</td></tr> <tr><td>谷中中学校</td><td>平成19年10月12日</td></tr> <tr><td>第四中学校</td><td>平成23年11月 1日</td></tr> <tr><td>六月中学校</td><td>平成24年 4月 1日</td></tr> <tr><td>第五中学校</td><td>平成25年 9月 1日</td></tr> </tbody> </table>	〔学校名〕	〔指定日〕	大谷田小学校	平成25年 2月 1日	平野小学校	平成25年 3月 1日	西新井第二小学校	平成25年 5月 1日	弥生小学校	平成25年 9月 1日	西新井第一小学校	平成26年 9月 1日	弘道小学校	平成27年12月 1日	谷中中学校	平成19年10月12日	第四中学校	平成23年11月 1日	六月中学校	平成24年 4月 1日	第五中学校	平成25年 9月 1日
〔学校名〕	〔指定日〕																						
大谷田小学校	平成25年 2月 1日																						
平野小学校	平成25年 3月 1日																						
西新井第二小学校	平成25年 5月 1日																						
弥生小学校	平成25年 9月 1日																						
西新井第一小学校	平成26年 9月 1日																						
弘道小学校	平成27年12月 1日																						
谷中中学校	平成19年10月12日																						
第四中学校	平成23年11月 1日																						
六月中学校	平成24年 4月 1日																						
第五中学校	平成25年 9月 1日																						
今後の方針	<p>学校と地域、保護者間の十分な協議が整い、思いが合致した学校から順次、学校運営協議会を設置していく。</p>																						

教 育 委 員 会 報 告

平成28年11月30日

件 名	平成28年度第1回「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査 (hyper-QU) 」の結果について
所管部課名	学校教育部 教育指導課
内 容	<p>第1回「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査 (hyper-QU) 」を実施したので報告する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 調査の目的 児童・生徒に対して行う「友達との関係、学習意欲、教師との関係」等の調査結果から潜在的な不満や不安を把握・分析し、組織として意図的・計画的に安定した学級集団を作り上げていくことをめざす。</p> <p>2 調査の概要 (1) 日程 5月2日(月)から6月30日(木)まで</p> <p> (2) 対象 区立小・中学校のうち希望する67校 小学校44校 7,624人 中学校23校 6,901人 合 計 14,525人</p> <p> (3) 調査項目 ①学級満足度調査 ②学校生活意欲調査 ③ソーシャルスキル調査</p> <p> (4) 調査結果 別添資料1のとおり</p>
今後の方針	<p>指定校における対応状況</p> <p>1 研究指定校 【中島根小・保木間小・花保小・湊江中・江南中・六月中】</p> <p>2 研究指定校の実施内容 早稲田大学が分析した調査結果と区学力調査のクロス集計データをもとに、児童生徒個々への対応について検討し、専門スタッフの助言を受け、個々の状況に応じた指導を実施することで学習意欲の向上を図る。</p>

教 育 委 員 会 報 告

平成28年11月30日

件 名	新田学園の児童・生徒数の増加に伴う対応策について																																																																																										
所管部課名	学校教育部 学校施設課、学校改築担当課																																																																																										
内 容	<p>新田学園については、これまで児童等の数を予測していたにも関わらず、運動施設に関する検討が不足していた。</p> <p>こうした中、近隣開発による児童・生徒数が年々増加していることに加え、平成29年9月には、新田一丁目に大型マンションが完成するため、改めて児童等の数と学級数の見込み（H28年11月現在）を基に対応策を検討することとする。</p> <p>1 児童等の数と学級数の見込み（平成28年11月現在）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="text-align: center;">年度</td> <td style="text-align: center;">28</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">31</td> <td style="text-align: center;">32</td> <td style="text-align: center;">33</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">児童等の数</td> <td style="text-align: center;">1,580</td> <td style="text-align: center;">1,730</td> <td style="text-align: center;">2,050</td> <td style="text-align: center;">2,140</td> <td style="text-align: center;">2,200</td> <td style="text-align: center;">2,240</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学級数</td> <td style="text-align: center;">47</td> <td style="text-align: center;">51</td> <td style="text-align: center;">59</td> <td style="text-align: center;">61</td> <td style="text-align: center;">62</td> <td style="text-align: center;">63</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="text-align: center;">年度</td> <td style="text-align: center;">34</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">36</td> <td style="text-align: center;">37</td> <td style="text-align: center;">38</td> <td style="text-align: center;">39</td> <td style="text-align: center;">40</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">児童等の数</td> <td style="text-align: center;">2,210</td> <td style="text-align: center;">2,170</td> <td style="text-align: center;">2,090</td> <td style="text-align: center;">2,000</td> <td style="text-align: center;">1,890</td> <td style="text-align: center;">1,770</td> <td style="text-align: center;">1,690</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学級数</td> <td style="text-align: center;">62</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td style="text-align: center;">58</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">53</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">48</td> </tr> </table> <p>2 体育授業時数（週）（平成28年11月現在）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="text-align: center;">年度</td> <td style="text-align: center;">28</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">31</td> <td style="text-align: center;">32</td> <td style="text-align: center;">33</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学級数</td> <td style="text-align: center;">47</td> <td style="text-align: center;">51</td> <td style="text-align: center;">59</td> <td style="text-align: center;">61</td> <td style="text-align: center;">62</td> <td style="text-align: center;">63</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">体育授業必要時数</td> <td style="text-align: center;">136</td> <td style="text-align: center;">148</td> <td style="text-align: center;">171</td> <td style="text-align: center;">177</td> <td style="text-align: center;">179</td> <td style="text-align: center;">182</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="text-align: center;">年度</td> <td style="text-align: center;">34</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">36</td> <td style="text-align: center;">37</td> <td style="text-align: center;">38</td> <td style="text-align: center;">39</td> <td style="text-align: center;">40</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学級数</td> <td style="text-align: center;">62</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td style="text-align: center;">58</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">53</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">48</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">体育授業必要時数</td> <td style="text-align: center;">178</td> <td style="text-align: center;">173</td> <td style="text-align: center;">168</td> <td style="text-align: center;">162</td> <td style="text-align: center;">153</td> <td style="text-align: center;">145</td> <td style="text-align: center;">139</td> </tr> </table> <p>※現状体育授業可能時数：140時間／週（運動施設5か所）</p> <p>3 対応方針</p> <p>教室については児童数の増加に対応可能であるが、運動施設は、上記のとおり体育授業必要時数を確保できない。については、学校関係者や地域住民等と協議し、「新田さくら公園」の一部利用など、公共用地等の活用を検討していく。</p> <p>4 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、PTA会長、地元町会及び自治会長等へ周知説明 ・開かれた学校づくり協議会及びまちづくり協議会へ周知説明 ・地域住民への周知説明 	年度	28	29	30	31	32	33	児童等の数	1,580	1,730	2,050	2,140	2,200	2,240	学級数	47	51	59	61	62	63	年度	34	35	36	37	38	39	40	児童等の数	2,210	2,170	2,090	2,000	1,890	1,770	1,690	学級数	62	60	58	56	53	50	48	年度	28	29	30	31	32	33	学級数	47	51	59	61	62	63	体育授業必要時数	136	148	171	177	179	182	年度	34	35	36	37	38	39	40	学級数	62	60	58	56	53	50	48	体育授業必要時数	178	173	168	162	153	145	139
年度	28	29	30	31	32	33																																																																																					
児童等の数	1,580	1,730	2,050	2,140	2,200	2,240																																																																																					
学級数	47	51	59	61	62	63																																																																																					
年度	34	35	36	37	38	39	40																																																																																				
児童等の数	2,210	2,170	2,090	2,000	1,890	1,770	1,690																																																																																				
学級数	62	60	58	56	53	50	48																																																																																				
年度	28	29	30	31	32	33																																																																																					
学級数	47	51	59	61	62	63																																																																																					
体育授業必要時数	136	148	171	177	179	182																																																																																					
年度	34	35	36	37	38	39	40																																																																																				
学級数	62	60	58	56	53	50	48																																																																																				
体育授業必要時数	178	173	168	162	153	145	139																																																																																				
今後の方針	新田学園PTAや地元町会・自治会、まちづくり協議会等へ丁寧に説明し、理解を得ながら、対応策を決定する。																																																																																										

教 育 委 員 会 報 告

平成28年11月30日

件 名	足立区育英資金検討委員会の設置について。																		
所管部課名	学校教育部 学務課																		
内 容	<p>1 設置目的 育英資金について、持続可能性を担保しつつ、区民のニーズに沿った、利用しやすい制度への改善を検討する。</p> <p>2 委員構成 外部有識者2名、学校関係者3名を含む8名で構成する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">氏 名</th> <th>所 属 団 体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小林 雅之</td> <td>東京大学総合教育研究センター教授</td> </tr> <tr> <td>田中 隆一</td> <td>東京大学社会科学研究所准教授</td> </tr> <tr> <td>井上 隆</td> <td>都立高等学校長代表</td> </tr> <tr> <td>宮下 みどり</td> <td>区立中学校長代表</td> </tr> <tr> <td>畠山 千亜紀</td> <td>区立中学校PTA代表</td> </tr> <tr> <td>定野 司</td> <td>教育長</td> </tr> <tr> <td>宮本 博之</td> <td>学校教育部長</td> </tr> <tr> <td>秋生 修一郎</td> <td>子どもの貧困対策担当部長</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 第1回検討会の開催 (1) 日時 平成28年12月7日(水) 13時～ (2) 場所 教育委員会室 (3) 審議事項 論点整理と今後の進め方</p> <p>4 主な議題 (1) 足立区育英資金奨学金と他奨学金との役割分担や、両制度の併用 (2) 足立区育英資金奨学金(一部償還免除型含む)の募集人数と貸付額 (3) 保証人の条件とあり方 (4) 一部償還免除型の成績要件 (5) 所得連動返還型返済方法 (6) 給付型奨学金</p>	氏 名	所 属 団 体	小林 雅之	東京大学総合教育研究センター教授	田中 隆一	東京大学社会科学研究所准教授	井上 隆	都立高等学校長代表	宮下 みどり	区立中学校長代表	畠山 千亜紀	区立中学校PTA代表	定野 司	教育長	宮本 博之	学校教育部長	秋生 修一郎	子どもの貧困対策担当部長
氏 名	所 属 団 体																		
小林 雅之	東京大学総合教育研究センター教授																		
田中 隆一	東京大学社会科学研究所准教授																		
井上 隆	都立高等学校長代表																		
宮下 みどり	区立中学校長代表																		
畠山 千亜紀	区立中学校PTA代表																		
定野 司	教育長																		
宮本 博之	学校教育部長																		
秋生 修一郎	子どもの貧困対策担当部長																		
今後の方針	原則、月1回開催を予定。 第3回を目途に中間報告を行い、29年度当初に最終報告をまとめる。																		

教 育 委 員 会 報 告

平成28年11月30日

件 名	足立区における学力向上施策等の効果検証に伴う行政データの提供に関する協定の締結について																				
所管部課名	学力定着対策室 学力定着推進課、 学校教育部 教育政策課、教育指導課、学務課																				
内 容	<p>早稲田大学野口晴子教授他4名の研究者の共同研究の実施に伴い、足立区が保有する行政データの提供等の協力要請があった。この研究により、足立区の様々な行政データが包括的に分析されることで、これまでの教育施策を検証し、新たな政策形成に資することが期待される。</p> <p>教育委員会が保有する情報を提供するにあたっては、各研究者が所属する各大学とそれぞれ基本協定を締結することになったので報告する。</p> <p>なお、個人情報の取り扱いについては、足立区情報公開・個人情報保護審議会（平成28年11月15日開催）において承認された内容に基づき適切に取り扱うこととする。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 概要</p> <p>(1) 研究の概要</p> <p>足立区から提供を受けた下記「足立区基礎学力定着に関する総合調査」等のデータを活用し、複数種・複数年のデータを結びつけながら、多角的な視点で分析を進め、足立区の取り組みが子どもの学力向上や体力向上にどのような効果があったのか等、さまざまな定量的検証を行う。</p> <p>(2) 足立区の提供データ（担当所管）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 足立区基礎学力定着に関する総合調査結果データ（学力定着推進課） ② 東京都児童・生徒体力・運動能力調査結果データ（教育指導課） ③ 児童・生徒名簿データ（教育政策課） ④ 全国学力・学習状況調査結果データ（学力定着推進課） ⑤ 足立区立小・中学校教職員データ（教育指導課） ⑥ 就学援助受給世帯の児童・生徒データ（学務課） ⑦ 学校基本調査データ（学務課） ⑧ あだち小学生基礎学習教室・中学生補習講座データ（学力定着推進課） <p>2 研究テーマ及び研究者</p> <p style="text-align: center;">「子どものそだちの決定要因に関する実証的研究」 (文部科学省科学研究費)</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">(研究代表者)</td> <td style="padding-right: 20px;">早稲田大学</td> <td style="padding-right: 20px;">教授</td> <td>野口 晴子</td> </tr> <tr> <td>(分担研究者)</td> <td>東京大学</td> <td>准教授</td> <td>田中 隆一</td> </tr> <tr> <td></td> <td>慶應義塾大学</td> <td>准教授</td> <td>別所 俊一郎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>早稲田大学</td> <td>准教授</td> <td>川村 顕</td> </tr> <tr> <td></td> <td>筑波大学</td> <td>助教</td> <td>牛島 光一</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(各研究者の所属はH28.11.30現在)</p> <p>3 協定の締結時期</p> <p style="text-align: center;">平成28年12月中旬（予定）</p>	(研究代表者)	早稲田大学	教授	野口 晴子	(分担研究者)	東京大学	准教授	田中 隆一		慶應義塾大学	准教授	別所 俊一郎		早稲田大学	准教授	川村 顕		筑波大学	助教	牛島 光一
(研究代表者)	早稲田大学	教授	野口 晴子																		
(分担研究者)	東京大学	准教授	田中 隆一																		
	慶應義塾大学	准教授	別所 俊一郎																		
	早稲田大学	准教授	川村 顕																		
	筑波大学	助教	牛島 光一																		

	<p>4 今後の予定</p> <p>(1) 匿名化データの作成 平成28年12月下旬～平成29年3月末にかけて、提供データのうち個人の特定につながる情報（氏名、学校名）をコードに置き換える匿名化処理を実施する。作業は研究機関からの職員派遣等の協力を得て、区の経費負担はゼロで実施し、匿名化作業完了後のデータを研究機関に提供する。</p> <p>(2) 研究の実施及び成果の公表 研究機関において平成29～30年度にかけて分析及び研究を進め、成果発表は平成30年度末を予定。</p>
<p>今後の方針</p>	

教 育 委 員 会 報 告

平成28年11月30日

件 名	区立保育園における保育に有効な面積の不足の対応について																																																																																																																														
所管部課名	子ども家庭部 待機児ゼロ対策担当課 子ども施設整備課 子ども施設運営課																																																																																																																														
内 容	<p>平成28年9月21日に報告した「区立保育園における保育に有効な面積の不足」に対する対応について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 弘道保育園</p> <p>(1) 定数変更計画 平成29年度と平成30年度に段階的に定数変更を行い、1歳児及び2歳児の定数を10人減とする。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>0歳</th> <th>1歳</th> <th>2歳</th> <th>3歳</th> <th>4～5歳</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>60</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>30</td> <td>60</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>30</td> <td>60</td> <td>132</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>-4</td> <td>-6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-10</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">-10</td> <td colspan="3">0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 対応 中央本町地域においては、「足立区待機児童解消アクション・プラン」に基づいて、平成29年4月及び平成30年4月に認可保育所の開設などを予定している。これにより、減少分を上回る保育定数を確保できる見込みである。</p> <p>ア 平成29年4月1日の定数増減</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>施設名 (事由・進捗状況)</th> <th>0歳</th> <th>1歳</th> <th>2歳</th> <th>3歳</th> <th>4～5歳</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>弘道保育園(定数変更)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-6</td> </tr> <tr> <td>平成28年度整備 認可保育所(整備中)</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>26</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>平成28年度整備 小規模保育(整備中)</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12</td> <td>16</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>26</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">39</td> <td colspan="3">39</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 平成30年4月1日の定数増減</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>施設名 (事由・進捗状況)</th> <th>0歳</th> <th>1歳</th> <th>2歳</th> <th>3歳</th> <th>4～5歳</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>弘道保育園(定数変更)</td> <td>0</td> <td>-4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-4</td> </tr> <tr> <td>平成29年度整備 認可保育所(審査中)</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>22</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>平成29年度整備 認証保育所(公募予定)</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12</td> <td>18</td> <td>23</td> <td>11</td> <td>22</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">53</td> <td colspan="3">33</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年 度	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計	平成28年度	10	18	24	30	60	142	平成29年度	10	18	18	30	60	136	平成30年度	10	14	18	30	60	132		0	-4	-6	0	0	-10		-10		0				施設名 (事由・進捗状況)	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計	弘道保育園(定数変更)	0	0	-6	0	0	-6	平成28年度整備 認可保育所(整備中)	6	10	10	13	26	65	平成28年度整備 小規模保育(整備中)	6	6	7	0	0	19		12	16	11	13	26	78		39		39				施設名 (事由・進捗状況)	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計	弘道保育園(定数変更)	0	-4	0	0	0	-4	平成29年度整備 認可保育所(審査中)	6	10	11	11	22	60	平成29年度整備 認証保育所(公募予定)	6	12	12	0	0	30		12	18	23	11	22	86		53		33			
年 度	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計																																																																																																																									
平成28年度	10	18	24	30	60	142																																																																																																																									
平成29年度	10	18	18	30	60	136																																																																																																																									
平成30年度	10	14	18	30	60	132																																																																																																																									
	0	-4	-6	0	0	-10																																																																																																																									
	-10		0																																																																																																																												
施設名 (事由・進捗状況)	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計																																																																																																																									
弘道保育園(定数変更)	0	0	-6	0	0	-6																																																																																																																									
平成28年度整備 認可保育所(整備中)	6	10	10	13	26	65																																																																																																																									
平成28年度整備 小規模保育(整備中)	6	6	7	0	0	19																																																																																																																									
	12	16	11	13	26	78																																																																																																																									
	39		39																																																																																																																												
施設名 (事由・進捗状況)	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計																																																																																																																									
弘道保育園(定数変更)	0	-4	0	0	0	-4																																																																																																																									
平成29年度整備 認可保育所(審査中)	6	10	11	11	22	60																																																																																																																									
平成29年度整備 認証保育所(公募予定)	6	12	12	0	0	30																																																																																																																									
	12	18	23	11	22	86																																																																																																																									
	53		33																																																																																																																												

2 第二日ノ出町保育園

(1) 定数変更計画

平成29年度から平成31年度にかけて段階的に定数変更を行い、1～5歳児の定数を23人減（うち、0～2歳児は7人減）とする。

年 度	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計
平成28年度	10	16	22	24	50	122
平成29年度	10	16	18	22	50	116
平成30年度	10	13	18	18	46	105
平成31年度	10	13	18	18	40	99
	0	-3	-4	-6	-10	-23
	-7		-16			

(2) 対応

千住地域においては、「足立区待機児童解消アクション・プラン」に基づいて、平成29年4月及び平成30年4月に認可保育所の開設などを予定している。これにより、減少分を上回る保育定数を確保できる見込みである。

ア 平成29年4月1日の定数増減

施設名（事由・進捗状況）	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計
第二日ノ出町保育園（定数変更）	0	0	-4	-2	0	-6
平成28年度整備 認可保育所2所（整備中）	12	22	24	39	53	150
	12	22	20	37	53	144
	54		90			

イ 平成30年4月1日の定数増減

施設名（事由・進捗状況）	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計
第二日ノ出町保育園（定数変更）	0	-3	0	-4	-4	-11
認可保育所（定数変更）	0	0	0	0	25	25
平成29年度整備 認可保育所（再公募）	6	10	10	13	26	65
平成29年度整備 認可保育所（認証の認可化）※	0	0	0	9	21	30
平成29年度整備 認証保育所（公募予定）	6	12	12	0	0	30
※ 認証の認可化は、従前の認証保育所と比較した定員の増・減について計画上の見込み数を計上している。	12	19	22	18	68	139
	53		86			

ウ 平成31年4月1日の定数増減

施設名（事由・進捗状況）	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計
第二日ノ出町保育園（定数変更）	0	0	0	0	-6	-6
（再掲）平成30年4月1日の定員増減	12	19	22	18	68	139
	12	19	22	18	62	133
	53		80			

3 大谷田第二保育園

(1) 定数変更計画

平成29年度に定数変更を行い、1歳児及び2歳児の定数を7人減とする。

年 度	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計
平成28年度	10	14	19	23	50	116
平成29年度	10	11	15	23	50	109
	0	-3	-4	0	0	-7
		-7		0		

(2) 対応

大谷田第二保育園の利用者が存在する地域（佐野地域及び綾瀬地域の一部）においては、「足立区待機児童解消アクション・プラン」に基づいて平成29年4月、平成30年4月及び、平成31年4月に認可保育所の開設などを予定している。これにより、当該地域全体で減少分を上回る保育定数を確保できる見込みである。

ア 平成29年4月1日の定数増減

施設名（変更事由）	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計
大谷田第二保育園（定数変更）	0	-3	-4	0	0	-7
認可保育所（定数変更）※1	0	4	10	-4	4	14
平成28年度整備 認可保育所（認証の認可化）※2	-1	2	2	7	19	29
※1、※2 綾瀬地域 ※2 認証の認可化は、従前の認証保育所と比較した定員の増・減を計上している。	-1	3	8	3	23	36
		10		26		

イ 平成30年4月1日の定数増減

施設名（事由・進捗状況）	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計
平成29年度整備 認可保育所（審査中）※3	6	10	11	11	22	60
※3 綾瀬地域（東和・中川）	6	10	11	11	22	60
		27		33		

ウ 平成31年4月1日の定数増減

施設名（事由・進捗状況）	0歳	1歳	2歳	3歳	4～5歳	計
平成30年度整備 認可保育所（公募予定）※4	6	10	11	11	22	60
※4 佐野地域	6	10	11	11	22	60
		27		33		

今後の方針

- 今後の保育需要等の状況を見極め、「足立区待機児童解消アクション・プラン」において地域を未定としている施設（平成29年度整備予定の認証保育所1所・小規模保育1施設）を当該地域に整備することを検討する。
- 上記3園以外の区立保育園について有効面積の調査を行い、定数減少となる園については、今後、「足立区待機児童解消アクション・プラン」改定の中で対応する。

教 育 委 員 会 報 告

平成28年11月30日

件 名	足立区立保育園の民営化に伴う運営予定事業者の選定について										
所管部課名	子ども家庭部 子ども施設整備課										
内 容	<p>公立保育園民営化計画に基づき、平成30年4月から民営化する区立弘道保育園及び区立大谷田第二保育園の運営予定事業者について、「足立区子ども施設指定管理者選定等審査会」を開催し、審査会の答申を受けて下記のとおり選定したので報告する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 審査会開催日 平成28年11月11日（金） ※審査対象事業者がどちらも3者以下だったため、第一次審査（書類審査）と第二次審査（プレゼンテーション・園長予定者ヒアリング）を同日に実施。</p> <p>2 運営予定事業者</p> <p>（1）弘道保育園</p> <p>①名 称：社会福祉法人樹 ②所 在 地：千葉県流山市南流山一丁目17番地4 ③運営施設：認可保育園3園（聖華いつき保育園、他2園） ④民営化手法：土地は区から無償貸付、建物は区から無償譲渡。</p> <p>（2）大谷田第二保育園</p> <p>①名 称：学校法人小泉学園 ②所 在 地：足立区佐野一丁目20番10号 ③運営施設：幼稚園1園（東京いずみ幼稚園） ④民営化手法：土地は独立行政法人都市再生機構（UR）から無償貸付、建物は区から無償譲渡。</p> <p>※審査結果の詳細は別紙「審査結果表」のとおり</p> <p>3 今後のスケジュール（予定）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">日 程</th> <th style="width: 70%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年12月以降</td> <td>事業者・保育園・主管課による3者打合せ</td> </tr> <tr> <td>平成29年4月</td> <td>引継ぎ保育開始</td> </tr> <tr> <td>平成30年2・3月</td> <td>新旧職員による保護者会、個人面談</td> </tr> <tr> <td>平成30年4月</td> <td>私立保育園として事業者による運営開始</td> </tr> </tbody> </table> <p>※この間、事業者による保護者説明会を3、4回開催。</p>	日 程	内 容	平成28年12月以降	事業者・保育園・主管課による3者打合せ	平成29年4月	引継ぎ保育開始	平成30年2・3月	新旧職員による保護者会、個人面談	平成30年4月	私立保育園として事業者による運営開始
日 程	内 容										
平成28年12月以降	事業者・保育園・主管課による3者打合せ										
平成29年4月	引継ぎ保育開始										
平成30年2・3月	新旧職員による保護者会、個人面談										
平成30年4月	私立保育園として事業者による運営開始										
今後の方針	事業者・保育園・主管課による3者打合せを毎月開催し、スムーズな引継ぎを行ない、園児及び保護者の不安を解消する。										

民営化に伴う運営予定事業者 審査結果表

* 第一次審査会 H28. 11. 11

* 第二次審査会 H28. 11. 11

評価項目	第一次審査(書類審査)								第二次審査(プレゼンテーション等)						総合得点		
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	第一次審査会得点	第二次審査会得点	総合得点
	事業計画・保育園運営	保育サービス	職員管理	危機管理	園児の健康管理	経営の安定性	区内事業者への割合加点(5%)	ワークライフバランス割合加点	施設運営の取組み、姿勢	保育・教育の取組みの実行性	人材の確保・育成及び職員の管理の実行性	危機管理対応の実行性	園長予定者ヒアリング・園長の適性	既存園の実地調査			
満点(委員7人)	840	350	490	630	490	700			1,400	1,400	2,100	1,400	2,100	2,100	3,500	10,500	14,000
【弘道保育園】 1	597	247	308	463	345	682	0	0	1,145	1,117	1,554	1,057	1,610	1,782	2,642	8,265	10,907
									(75.5%)						(78.7%)		(77.9%)
【弘道保育園】 2	641	228	330	441	340	542	0	0	1,088	1,007	1,589	1,037	1,720	1,815	2,522	8,236	10,758
									(72.1%)						(78.4%)		(76.8%)
【弘道保育園】 3	543	243	346	461	354	573	126	0	1,075	1,097	1,513	1,069	1,665	1,382	2,646	7,801	10,447
									(75.6%)						(74.3%)		(74.6%)
【大谷田第二保育園】 1	604	237	334	428	333	668	131	0	1,076	1,121	1,808	1,058	1,640	1,582	2,735	8,085	10,822
									(78.1%)						(77.0%)		(77.3%)

※割合加点は委員ごとの小計に割合を乗じて得た得点の合計。()内は得点率(小数点第2位四捨五入)

教 育 委 員 会 報 告

平成28年11月30日

件 名	児童相談所の移管に向けた検討状況について
所管部課名	こども支援センターげんき こども家庭支援課
内 容	<p>今般の児童福祉法等の一部を改正する法律が国会で可決されたことに伴い、児童相談所の移管に向けての特別区長会における検討状況等について報告する。</p> <p>1 特別区長会の方針 改正法により、国が5年間を目途に行う児童相談所の設置に係る支援等の必要な措置が講じられる間に、準備が整った区から、順次、児童相談所の設置を目指す。</p> <p>2 特別区長会における検討状況 (1) 児童相談所移管準備に係る区長会の検討体制 ・副区長会の下に「児童相談所移管準備連絡調整会議」を設置 ・事務局として「児童相談所移管準備事務局」を区長会事務局内に設置 (2) 「児童相談所移管準備連絡調整会議」における検討経過 ・7月19日 関係部課長会・移管を希望する区へ検討依頼 ・10月27日 関係部課長会・希望区からの資料とりまとめ (3) 検討結果 ア 児童相談所を移管するに当たっての課題の抽出・整理 「各区課題（希望区で検討する課題）」「共通課題（区共通の検討課題で都協議を要しない課題）」「都協議課題（区共通の課題で都との協議を要する課題）」として、課題を3分類に整理した。整理した課題の概要は、別紙1のとおり。 イ 児童相談所の移管に向けた具体化の検討（希望区にける検討状況） 希望する22区では、児童相談所移管後の体制、児童相談所設置市の事務の実施方法、児童相談所職員の確保及び人材育成などについて検討した。検討結果の概要は、別紙2のとおり。</p> <p>3 東京都との協議について 特別区長会においては、全体のロードマップを整理した上で、東京都との協議にあたることとしている。</p>
今後の方針	児童相談所移管準備連絡調整会議での検討状況及び都と特別区長会との調整状況等を、随時、報告していく。

児童相談所を移管するに当たったの課題の抽出・整理（概要版）

【検討方法】

- 関係部課長会において各分野の課題を抽出し、「各区課題」、「共通課題」、「都協議課題」に分類した
- 特別区児童相談所移管準備連絡調整会議において、下記の「分類の定義」に基づき、関係部課長会で抽出・整理した課題の分類や文言等全体の調整・整理を行い、とりまとめられた

【関係部課長会】

企画・財政担当部長会	財政課長会
総務部長会	人事・研修担当課長会
保健衛生主管部長会	保健衛生主管課長会
福祉主管部長会	障害福祉課長会 児童主管課長会

【分類の定義】

- (各区課題)
○希望区で検討する課題
※下記以外の都及び区間の協議を要する課題を含む
(共通課題)
○区全体の共通課題として検討する課題のうち、都との協議を要しない課題
(都協議課題)
○区全体の共通課題として、都との協議を要する課題

【抽出・整理された課題総数】

各区課題	共通課題	都協議課題
240項目	146項目	153項目

【各区課題】

- ◇児童相談所と子ども家庭支援センターの役割分担、子ども家庭支援センターの位置づけ及び子育て世代包括支援センターとの関係性の整理
- ◇児童相談所の設置形態（単独施設か複合施設か、一時保護所と併設するか否か）、設置場所、開設時期等の施設整備に関する検討
- ◇児童相談所及び一時保護所の職員規模（職員数）・職員構成・職員配置、職員採用の時期・人数・職種、組織構成・業務分担等の検討や夜間・休日体制、苦情相談体制の整備
- ◇一時保護所における単独設置・共同設置の別の検討や共同設置区間による協議、調整（設置方法、設置場所、定員、入所調整、費用負担など）
- ◇社会的養護に関する事項
 - ・社会的養護の体制整備に関する基本的考え方 ・里親支援策、里親委託の推進方策や里親会の取扱い
 - ・グループホームの設置促進方策

【共通課題】

- ◇職員の確保・育成・活用に関する事項
 - ・専門職の採用方法（「心理」等の統一選考化）、経験者採用（対象職種への「福祉」等の追加）
 - ・区間での人事交流及び派遣交流 ・共同研修の実施
- ◇一時保護所の相互利用、里親の相互委託の仕組みづくり
- ◇共通の児童相談システムの導入、中央児童相談所的機能の必要性の検討
- ◇児童相談所設置市の事務に関する実施基準・事務処理マニュアルの共通化や小児慢性特定疾病の医療の給付に関する事務の認定審査会の設置方法

【都協議課題】

- ◇児童相談所の立ち上げ支援及び児童相談所設置後の連携に関する事項
 - ・都職員との区への派遣、人事交流（身分切替） ・区職員の都への派遣 ・設置後の都区間での職員派遣
 - ・業務マニュアルの提供 ・都区合同の会議体の設置（所長会等） ・一時保護所、施設入所に係る広域調整
- ◇社会的養護に関する事項
 - ・都利用の児童養護施設等の活用 ・都区相互間の里親委託の仕組みづくり
- ◇児童相談所設置市の事務に関する情報提供（業務内容、事務の実施方法・基準、事務処理マニュアル等）や認可、指定、指導、検査の事務等に関する技術的支援
- ◇関連経費の財源移譲の方法（都区財政調整、補助金、分担金など）

※今後の検討の中で、新たな課題が発生した場合及び分類の区分けに変更等が必要となる場合は、適宜追加、見直しを行うものとする。

児童相談所の移管に向けた具体化の検討の再調整について～希望区における検討状況～

1. 移管後の児童相談行政の体制について

【児童相談所の設置を希望する理由】

- 児童相談所を核として、子どもや家庭に関する身近な相談から虐待、障害、非行など、区があらゆる相談に一元的に対応することで、区民にわかりやすく、身近で利用しやすい児童相談体制を構築することができる。
- 子ども家庭支援センターの経験と実績を基盤に、これまで築いてきた地域の関係機関等とのネットワークを活用しながら、虐待予防から一時保護、社会的養護、家庭復帰まで子どもや家庭との関係を途切れさせること無く一貫して支援することができる。

【移管後の児童相談体制についての考え方】

- 児童相談所と子ども家庭支援センターの関係は、①及び②のいずれかを基本に、関係部署を含め、業務の再編・統合・分担を行うなど、各区の実情に即した体制を構築する。
 - ① 児童相談所と子ども家庭支援センター機能を統合
 - ② 子ども家庭支援センターを存続させ、児童相談所と機能を分担
- 法定化された「子育て世代包括支援センター」の整備については、子ども家庭支援センターをモデルとして法定化された「要保護児童等に対する支援拠点」が「子育て世代包括支援センター」の機能を取り込む形で、引き続き母子保健部と子ども家庭支援センターとの役割分担を基本に、それぞれが対応する。

2. 児童相談所設置市の事務の実施方法について

- 事務の内容に応じて、児童相談所と関係部署（障害福祉所管理課、保健衛生所管理課など）において、必要な連携、調整を図りながら実施する。
- 事務処理に当たっては、統一の基準・マニュアルを策定するとともに、小児慢性疾患の医療給付に関する事務における「認定審査会」など、特に高度な専門性を有する専門医等の人材確保が必要となる事務について、共同処理の必要性を検討する。

3. 児童相談所及び一時保護所の職員確保・人材育成について

【常勤職員の確保予定人数】

職 種	児童相談所		一時保護所	
	各区分合計	職 種	各区分合計	各区分合計
常勤職員	603人	常勤職員	269人	
〈児童福祉司(SV含む)〉	(287人)	〈児童指導員〉	(232人)	
〈児童心理司(SV含む)〉	(144人)	〈看護師など〉	(37人)	

*児童福祉司・児童心理司・児童指導員・看護師などの人数は、常勤職員の内数である。

<参考> 法改正に基づく新基準によって試算した希望区全体の児童福祉司・児童心理司の配置数 ※虐待対応件数による加算がないものとして試算

◇児童福祉司：232人 ◇児童心理司：116人

【職員確保・人材育成の方策】

職種等	確保策	育成策
所長	<ul style="list-style-type: none"> ◇開設後一定期間は都職員の派遣要請所長経験者・医師等を採用 ◇管理職の有資格者を活用 ◇所長候補(有資格者)に対する管理職試験受験の制奨 ◇子ども家庭支援センター職員・保健師・保育士・福祉事務所ケースワーカー等を活用 ◇統一採用・経験者採用を活用 ◇社会福祉士・精神保健福祉士の資格取得推奨の実施 ◇都区内での人事交流 	<ul style="list-style-type: none"> ◇研修の計画的な実施 ◇児童相談所への派遣研修 ◇所長候補(有資格者)を児童相談関係部署に配置し、スキル向上を促進 ◇児童相談関係部署への配置や児童相談所への派遣の計画的な実施 ◇特別区専門研修の実施や都・子どもの虹情報センターが実施する研修の活用
児童福祉司	<ul style="list-style-type: none"> ◇統一採用及び人事交流制度(区間・都区間)を活用 ◇有資格者を各区分で採用 ◇非常勤職員の中から適任者を採用 ◇区内医師会に推薦の協力依頼 ◇小児科医・小児精神科医等を非常勤又は嘱託で確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◇児童相談関係部署への配置や児童相談所への派遣の計画的な実施 ◇特別区専門研修の実施や都・子どもの虹情報センターが実施する研修の活用 ◇特別区専門研修の実施
医師	<ul style="list-style-type: none"> ◇区内医師会に推薦の協力依頼 ◇小児科医・小児精神科医等を非常勤又は嘱託で確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◇特別区専門研修の実施
弁護士	<ul style="list-style-type: none"> ◇非常勤又は顧問契約で確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◇一時保護所・児童養護施設等への派遣の計画的な実施 ◇児童相談関係部署への配置 ◇保育士が児童相談所研修を受講できる体制の整備 ◇特別区専門研修の実施や都・子どもの虹情報センターが実施する研修の活用
一時保護所職員	<ul style="list-style-type: none"> ◇統一採用を活用 ◇児童指導員(児童指導員)・保育士などの福祉職・子ども家庭支援センター職員等を活用 ◇開設後一定期間は都職員の派遣要請 ◇保育士の異動職場に一時保護所を加えてジョブローテーションを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◇主体的かつ迅速な一時保護が可能 ◇児童相談所と一時保護所の一元的な体制が確保でき、職員間の意思疎通が図りやすい。 ◇建設費や運営費等の効率化が可能 ◇複数区の需要に応じた定員設定とすることで、スケールメリットを活かした入所調整が可能

4. 一時保護所の持ち方について

設置方法	合計	設置方法の主な選択理由
単独設置	18区	<ul style="list-style-type: none"> ◇主体的かつ迅速な一時保護が可能 ◇児童相談所と一時保護所の一元的な体制が確保でき、職員間の意思疎通が図りやすい。
共同設置	5区	<ul style="list-style-type: none"> ◇建設費や運営費等の効率化が可能 ◇複数区の需要に応じた定員設定とすることで、スケールメリットを活かした入所調整が可能
運営執行協議会方式	4区	
運営方式は未定	1区	
その他	1区	◇東京都の既存施設の活用(定員協定)

(注) 植数の設置方法を回答した区は、全てをカウントしている。

【一時保護所の定員】

希望区計：256名～268名

(注)定員に幅を持たせている区があるため、合計の定員に幅がある。

【一時保護所の設置にあたり想定される課題と対応策】

課題	対応策
◇自区の一時的保護所で保護できないケースへの対応（児童の居所を転置する必要がある場合、定員を超過した場合等）	◇区間・都区間で一時保護所を相互利用するための共通ルールを策定
◇共同設置を希望する区間の調整	◇共同設置を希望する区で、設置方法、定員、箇所数、開設時期、費用負担等について協議、調整

5. 児童相談所及び一時保護所の施設整備について

施設整備方針	児童相談所	一時保護所
新規建設の検討	14区	13区
区有地・区有施設を活用	9区	10区
都の既存施設を活用	4区	4区

(注1)複数の方針を回覧した区は、全てをカウントしている。

(注2)一時保護所を単独設置すると回答した区のうち、児童相談所と一時保護所を併設する区が12区、児童相談所と併設しない区が8区、検討中とした区が4区である。

6. 社会的養護の拡充について

【社会的養護体制の充実についての考え方】

- 家庭養護（里親、ファミリーホーム）を中心に、地域小規模児童養護施設（グループホーム）等の設置促進を図りながら、社会的養護体制を整えていく。あわせて、子どもたちの多様なニーズに対応するため、施設養護の取組みを進めるなど、施設養護についても必要となる定員数を確保していく。

【家庭養護（里親、ファミリーホーム）の普及啓発に必要な方策】

- 広報紙、ホームページ、地域イベント等を活用した、地域密着型の広報活動
- 里親制度推進のための専門職員配置
- ファミリーホームの整備促進のため財政的な支援

【養育里親、養子縁組里親への支援に必要な方策】

- 保育園の入園配慮等の措置、レスパイトケア体制の強化
- 里親サロンの実施、里親会等の設置
- 里親の孤立化を防ぐための訪問支援の実施

【施設養護における必要な定員を確保するための方策】

施設	施設ごとの確保の方策
児童養護施設	◇東京都との定員協定の締結 ※1 ◇事業者への財政支援（希望区で共同基金を設立し、施設整備や運営費の補助を行う等） ※2
乳児院	◇誘致活動の実施 ※3
小規模グループケア	◇児童養護施設に対する設置促進活動の実施
グループホーム	◇空き家の活用
児童自立支援施設 障害児入所施設	◇希望区共同もしくは複数区での設置も検討

(注) ※1から※3は、全施設に共通した確保策

7. 情報管理、情報共有の必要性について

(注)複数の方針を回答した区は、全てをカウントしている。

児童相談システムの構築方針	合計
区で独自開発	12区
区間で共同開発	6区
都システムを活用	6区

【関係機関との情報共有が必要と思われる事項やその対応策】

- ケース情報等の区児相間・都児相間における情報共有のルールや仕組みについて、メンバーの活用も含めて検討する。
- 学校、保育所、保健所、警察、民生・児童委員等の関係機関との情報共有のルールや仕組みを構築する。
- 区合同・都区合同の所長会議や担当者会議等を定期的に開催する。

8. 夜間休日対応について

【夜間休日体制の考え方】

- 東京都の現行体制等を参考にして職員体制を整える。
- 時間外の通告・緊急一時保護については、一時保護所に対応する。
- 当番職員に携帯電話を所持させて緊急対応を行う。
- 区共同・都区共同による夜間休日体制を整備することについて検討する。

課題	対応策
◇緊急時の情報確認体制	◇緊急対応を行う当番を決める等の体制を確立
◇自区での一時保護が困難な児童を、夜間に一時保護所を相互利用する際の連絡体制の確保	◇警察との連携について協議し、協力体制を確立
◇警察が関与した緊急一時保護への対応	◇警察との個別対応マニュアルを作成
◇職員の勤務体制	◇勤務体制や宿直手当の検討

9. その他必要と思われる項目

【警察との連携について】

- 定期的な連絡会等を開催して情報交換・情報連絡を行い、警察との連携を強化する。
- 合同研修を実施し、立ち入り調査・臨検・捜索等における連携・協力体制を構築する。
- 警察OBを採用し、虐待対応や非行少年に対応するためのスキルやノウハウを活用する。

【家庭裁判所との連携について】

- 定期的な連絡会等を開催して情報交換・情報連絡を行い、連携・協力体制を構築するとともに、申立手続きに必要な資料作成等に関するノウハウを蓄積していく。
- 児童相談所に配置する弁護士を活用して、連携を強化する。

【その他】

- メンタルフレンドの育成支援、母子生活支援施設の機能拡大、児童養護施設の退所者支援等について検討する。
- 要保護児童対策地域協議会を中心とした地域の関係機関との連携強化策について検討する。

教育委員会情報連絡

平成28年11月30日

件名	平成29年度新入学児童・生徒の区立小・中学校希望選択応募状況最終集計表の公表について
所管部課名	学校教育部 学務課
内容	<p>平成29年度新入学児童・生徒の区立小・中学校希望選択の応募状況について、11月30日に最終集計の公表を行った。</p> <p>1 希望選択の応募状況の最終集計結果 別紙「平成29年度新入学 小・中学校選択の応募状況（最終集計表）」のとおりである。 なお備考欄の「抽選校」の表示は、入学見込者数が受入可能人数を上回り抽選を実施する学校である。また、「凍結校」の表示は、抽選は行わないが、今後は学区域外からの選択はできない学校である。</p> <p>2 今後のスケジュール</p> <p>(1) 抽選会の実施 抽選とした学校に応募した、学区域外の児童・生徒を対象に抽選を実施する期間 平成28年12月6日から12日まで</p> <p>(2) 就学通知書の発送 平成29年1月20日</p> <p>(3) 繰上げ処理期間 抽選校への入学を辞退する児童・生徒が出た場合に、補欠者を順次繰上する期間 平成29年1月下旬から2月28日まで</p> <p>(4) 最終待機者の指定校変更期間 最終的に繰上げとならなかった者の指定校変更期間 平成29年2月28日から3月7日まで</p>
今後の方針	

平成29年度 新入学 小学校選択の応募状況（最終集計表）

水色

平成29年度入学（新一年生）の最終応募状況は、次のとおりです。〔11月15日現在〕

No.	学校名	受入可能人数	応募人数			備考
			計	学区区域内人数	学区域外人数	
1	青井小	65	51	49	2	
2	足立小	100	111	79	32	抽選校
3	足立入谷小	65	28	25	3	
4	綾瀬小	135	137	103	34	凍結校
5	伊興小	100	109	84	25	抽選校
6	梅島小	100	134	96	38	抽選校
7	梅島第一小	65	34	25	9	
8	梅島第二小	65	43	40	3	
9	桜花小	65	63	58	5	
10	扇小	65	59	45	14	
11	大谷田小	65	47	40	7	
12	興本小	100	75	46	29	
13	加平小	100	86	43	43	
14	亀田小	170	178	167	11	抽選校
15	北三谷小	100	65	46	19	
16	北鹿浜小	65	38	28	10	
17	栗島小	100	70	61	9	
18	栗原小	65	72	57	15	抽選校
19	栗原北小	100	87	60	27	
20	弘道小	65	55	47	8	
21	弘道第一小	65	53	32	21	
22	江北小	65	34	32	2	
23	高野小	65	53	24	29	
24	古千谷小	100	88	71	17	
25	血沼小	65	48	40	8	
26	鹿浜五色桜小	100	91	61	30	
27	鹿浜第一小	100	104	79	25	凍結校
28	鹿浜西小	65	27	25	2	
29	島根小	100	68	56	12	
30	新田小	275	250	246	4	
31	関原小	100	73	48	25	
32	千寿小	135	110	102	8	
33	千寿桜小	100	68	52	16	
34	千寿常東小	135	107	94	13	
35	千寿第八小	100	83	80	3	

No.	学校名	受入可能人数	応募人数			備考
			計	学区区域内人数	学区域外人数	
36	千寿双葉小	100	82	76	6	
37	千寿本町小	65	87	45	42	抽選校
38	竹の塚小	65	51	29	22	
39	辰沼小	100	94	58	36	
40	寺地小	65	60	51	9	
41	舎人小	100	80	54	26	
42	舎人第一小	100	85	67	18	
43	中川小	100	82	70	12	
44	中川北小	100	85	65	20	
45	中川東小	65	45	41	4	
46	中島根小	100	73	49	24	
47	長門小	65	41	37	4	
48	西新井小	100	96	68	28	
49	西新井第一小	100	74	56	18	
50	西新井第二小	100	47	41	6	
51	西伊興小	100	96	78	18	抽選校
52	西保木間小	65	37	34	3	
53	花畑小	65	48	38	10	
54	花畑第一小	65	76	64	12	抽選校
55	花畑西小	65	61	34	27	
56	花保小	100	80	70	10	
57	東綾瀬小	100	80	58	22	
58	東伊興小	100	85	72	13	
59	東加平小	135	105	92	13	
60	東栗原小	65	67	53	14	凍結校
61	東洲江小	135	104	100	4	
62	平野小	100	93	83	10	
63	洲江小	100	85	47	38	
64	洲江第一小	100	84	69	15	
65	保木間小	65	49	37	12	
66	宮城小	100	83	83	0	
67	六木小	100	89	80	9	
68	本木小	65	62	36	26	
69	弥生小	100	91	54	37	

※応募人数には、国立・私立学校等の入学希望者も含まれています。

※抽選会の当選者数は、他校の抽選落選者数や転入・転出等を勘案して決定するため、『受入可能数 - 学区区域内人数』とは異なります。

◆抽選校及び抽選日（抽選の対象者には、「抽選時間・会場」等について郵送で通知します。）

抽選校	抽選日
栗原小学校	12月 9日（金）午後
伊興小学校	12月 9日（金）"
亀田小学校	12月 9日（金）"
千寿本町小学校	12月 9日（金）"

抽選校	抽選日
花畑第一小学校	12月 12日（月）午前
梅島小学校	12月 12日（月）"
西伊興小学校	12月 12日（月）午後
足立小学校	12月 12日（月）"

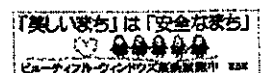
◆凍結校とは「学区域外から受入を制限する学校」です。

今後は、凍結校への希望者の入学を制限していきます。ただし、平成29年2月27日現在の欠員の状況によっては、凍結を解除することもあります。凍結の解除については、区ホームページのみで公表いたします。

解除校へ変更を希望する方は、平成29年2月28日から3月7日（平日8:30~17:00）に学務課へお越しください。

※この集計表は足立区ホームページでもご覧になれます。

※問い合わせ先 足立区教育委員会学務課就学係 TEL 3880-5969



平成29年度 新入学 中学校選択の応募状況（最終集計表）

オレンジ色

平成29年度入学（新一年生）の最終応募状況は、次のとおりです。〔11月15日現在〕

No.	学校名	受入可能人数	応募人数			備考
			計	学区 内人数	学区 外人数	
1	第一中	95	80	66	14	
2	第四中	200	287	127	160	抽選校
3	第五中	95	82	54	28	
4	第六中	95	107	83	24	凍結校
5	第七中	130	168	88	80	抽選校
6	第九中	200	191	135	56	
7	第十中	165	214	147	67	抽選校
8	第十一中	235	246	153	93	
9	第十二中	165	165	134	31	
10	第十三中	200	235	168	67	抽選校
11	第十四中	270	346	189	157	抽選校
12	青井中	60	29	25	4	
13	伊興中	200	214	159	55	
14	入谷中	60	40	23	17	
15	入谷南中	130	112	70	42	
16	扇中	95	68	64	4	
17	加賀中	95	72	57	15	
18	蒲原中	200	181	163	18	

No.	学校名	受入可能人数	応募人数			備考
			計	学区 内人数	学区 外人数	
19	栗島中	95	75	45	30	
20	江南中	60	65	65	0	
21	鹿浜菜の花中	165	150	127	23	
22	新田中	165	182	175	7	
23	千寿青葉中	130	180	128	52	抽選校
24	千寿桜堤中	165	328	152	176	抽選校
25	竹の塚中	95	54	31	23	
26	西新井中	200	220	120	100	
27	花畑中	95	51	38	13	
28	花畑北中	60	44	31	13	
29	花保中	95	84	71	13	
30	東綾瀬中	200	262	168	94	抽選校
31	東島根中	130	114	93	21	
32	淵江中	200	214	126	88	凍結校
33	谷中中	165	188	150	38	凍結校
34	六月中	200	205	112	93	

<平成29年度 統合新校>

35	江北桜中	95	125	107	18	抽選校
----	------	----	-----	-----	----	-----

●上沼田中学校と江北中学校が統合して、江北桜中学校になります。

※応募人数には、国立・都立・私立学校等の入学希望者も含まれています。

※抽選会の当選者数は、他校の抽選落選者数や転入・転出等を勘案して決定するため、『受入可能数 - 学区内人数』とは異なります。

◆抽選校及び抽選日（抽選の対象者には、「抽選時間・会場」等について郵送で通知します。）

抽選校	抽選日
第十三中学校	12月 6日 (火) 午前
第十中学校	12月 6日 (火) "
第十四中学校	12月 6日 (火) 午後
第七中学校	12月 6日 (火) "

抽選校	抽選日
第四中学校	12月 7日 (水) 午前
千寿桜堤中学校	12月 7日 (水) 午後
東綾瀬中学校	12月 8日 (木) 午前
江北桜中学校	12月 8日 (木) 午後
千寿青葉中学校	12月 8日 (木) "

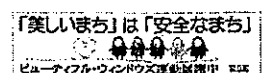
◆凍結校とは「学区外から受入を制限する学校」です。

今後は、凍結校への希望者の入学を制限していきます。ただし、平成29年2月27日現在の欠員の状況によっては凍結を解除することもあります。凍結の解除については、区ホームページのみで公表いたします。

解除校へ変更を希望する方は、平成29年2月28日から3月7日（平日8:30~17:00）に学務課へお越しください。

※この集計表は足立区ホームページでもご覧になれます。

※問い合わせ先 足立区教育委員会学務課就学係 TEL 3880-5969



教 育 委 員 会 情 報 連 絡

平成28年11月30日

件 名	日光林間学園の消防用設備工事に伴う休館について
所管部課名	学校教育部 学務課
内 容	<p>平成28年9月23日に消防設備業者が実施した消防用設備点検により、防排煙制御装置設備に不良箇所があることが判明した。 ついては、工事完了まで、以下のとおり施設を休館する。</p> <p>1 休館期間 平成28年12月1日(木)から平成29年3月31日(金)まで ※ 平成29年1月10日(火)から3月17日(金)までは、冬季休業期間である。</p> <p>2 工事内容 防排煙制御装置設備の受信盤の製作・交換・試験調整</p> <p>3 工事期間 平成29年3月上旬から3月下旬まで</p> <p>4 周知方法 (1) あだち広報12月25日号に掲載 (2) 区ホームページに掲載</p>
今後の方針	

教育委員会情報連絡

平成28年11月30日

件名	大仙市教育専門監の派遣指導及び講演会の実施について
所管部課名	学力定着対策室 学力定着推進課
内 容	<p>平成26年度より行っている大仙市教育委員会への教員派遣事業の一環として、大仙市より教育専門監を招いて、足立区における教育実践への指導・助言及び講演を行う。</p> <p>1 目的 秋田県大仙市との教育実践交流をさらに深め、全国トップレベルの自治体から学校経営改革や授業改善等の具体的手法を学び、区立小学校・中学校の教育実践に磨きをかける機会とする。</p> <p>2 概要 (1)大仙市派遣教員の公開授業・協議 平成29年1月16日(月)午後 小学校：鹿浜五色桜小学校(教科未定) 中学校：第十一中学校(数学)</p> <p>(2)講演会 平成29年1月17日(火) 小・中学校校長対象 午前10時～11時 こども支援センターげんき 5階 第3研修室 「授業を変えた大仙市のヒ・ミ・ツ ～授業改善に関する秋田県の取り組み～」</p> <p>*当日17日には、講演会の前に平成28年度大仙市派遣教員による「報告発表会」を行う予定。</p>
今後の方針	

教育委員会情報連絡 事業実施報告 (10月)

青少年課

行事名	実施日	会場	参加者数
中高生の居場所づくり	毎週水・日曜日 (9回)	新田地域学習 センター他	延べ 52人
	毎週水・土曜日 (9回)	東京未来大 福祉保育専門学校	5人
	第1・3土曜日 (2回)	神明住区センター	2人
サイエンスラボ スペース シュミレーターコース	1日 (土)	ギャラクシティ	8人
足立凧まつり	1日 (土)	荒川河川敷虹の広場	(雨天中止)
ジュエリーガー スーパー研修会	2日 (日)	ギャラクシティ	33人
アートボランティア講座	8日 (土)	ギャラクシティ	5人
音楽教育支援活動 (東京藝術大学連携事業)	11日 (火)	栗原北小	561人
	12日 (水)	弘道小・花畑西小	375人・342人
	13日 (木)	辰沼小	480人
	17日 (月)	東加平小	564人
	18日 (火)	足立入谷小	200人
	21日 (金)	弘道第一小・青井小	407人・375人
	27日 (木)	中川北小	552人
成人の日の集い 実行委員会 (第10・11回)	12日 (水)	本庁舎	9人
	26日 (水)		10人
レクリエーション講座	13日 (木)	ギャラクシティ	8人
サイエンスラボ ロボット講座	15日 (土)	ギャラクシティ	5人
サイエンスラボ 星空観察講座	15日 (土)	ギャラクシティ	各10人
	29日 (土)		
ふれあい動物教室	15日 (土)	花畑西小学校	130人
サイエンスラボ 科学ブロックくらぶ	16日 (日)	ギャラクシティ	9人
	23日 (日)		2人
キャンプ講座	16日 (日)	ギャラクシティ	11人
紙芝居講座	18日 (火)	ギャラクシティ	10人
Gユニワークショップ	22日 (土)	ギャラクシティ	10人
	30日 (日)		15人
ギター講座	23日 (日)	ギャラクシティ	6人
プラネタリウム投映	29日 (土)	ギャラクシティ	350人
キャンプの達人	30日 (日)	宮城ゆうゆう公園	15人

教育委員会情報連絡 事業実施・予定（11月）

青少年課

行事名	実施日	会場	参加予定者数
中高生の居場所づくり	毎週水・日曜日（9回）	新田地域学習 センター他	50人
	毎週水・土曜日（8回）	東京未来大 福祉保育専門学校	10人
	第1・3土曜日（2回）	神明住区センター	5人
サイエンスラボ スペース シュミレーターコース	5日（土）	ギャラクシティ	10人
ジュエリーガー スーパー研修会	6日（日）	ギャラクシティ	57人
成人の日の集い	9日（水）	本庁舎	各10人
実行委員会（第12・13回）	30日（水）		
アートボランティア講座	10日（木）	ギャラクシティ	6人
レクリエーション講座	10日（木）	ギャラクシティ	6人
音楽教育支援活動 （東京藝術大学連携事業）	11日（金）	千寿桜小	400人
	14日（月）	島根小	199人
	25日（火）	東栗原小	19人
ふれあい動物教室	12日（土）	関原小学校	143人
		鹿浜五色桜小学校	125人
サイエンスラボ ロボット講座	12日（土）	ギャラクシティ	12人
サイエンスラボ	12日（土）	ギャラクシティ	9人
星空観察講座	26日（土）		10人
あだち日曜教室	13日（日）	島根小学校	50人
あだちふれあい 計算フェスティバル	13日（日）	庁舎ホール	450人
紙芝居講座	15日（火）	ギャラクシティ	10人
あそびのフリマ	19日（土）	アリオ西新井	100人
Gユニワークショップ	19日（土）・27日（日）	ギャラクシティ	各20人
のびのびプレイデイ	19日（土）	帝京科学大学	200人
サイエンスラボ	20日（日）	ギャラクシティ	各10人
科学ブロックくらぶ	27日（日）		
ギター講座	20日（日）	ギャラクシティ	5人
キャンプ講座	25日（金）	ギャラクシティ	5人
体験！1日大学生	26日（土）	帝京科学大学	300人
プラネタリウム投映	26日（土）	ギャラクシティ	200人
足立凧まつり 凧のデザインコンクール	26日（土）	生涯学習センター	400人
親子体験キャンプ	27日（日）	舎人公園キャンプ場	50人

教育委員会情報連絡 事業予定 (12月)

青少年課

行事名	実施日	会場	参加予定者数
中高生の居場所づくり	毎週水・日曜日 (8回)	新田地域学習 センター他	50人
	毎週水・土曜日 (7回)	東京未来大 福祉保育専門学校	10人
	第1・3土曜日 (2回)	神明住区センター	5人
サイエンスラボ スペース シュミレーターコース	3日 (土)	ギャラクシティ	10人
ジュニアリーダーズ・スーパー研修会	4日 (日)	西新井第一小学校	30人
レクリエーション講座	8日 (木)	ギャラクシティ	10人
サイエンスラボ 星空観察講座	10日 (土) 17日 (土)	ギャラクシティ	各10人
ふれあい動物教室	10日 (土)	足立小学校 東栗原小学校	98人 129人
あだち日曜教室・ジュニアリーダーズ・スーパー研修会 共催事業	11日 (日)	島根小学校	70人
ギター講座	11日 (日)	ギャラクシティ	5人
成人の日の集い 実行委員会 (第14回)	14日 (水)	本庁舎	10人
キャンプ講座	16日 (金)	ギャラクシティ	5人
プラネタリウム投映	17日 (土)	ギャラクシティ	200人
Gユニワークショップ	17日 (土) 18日 (日)	ギャラクシティ	各20人
科学・ものづくり体験教室	17日 (土)	東京電機大学	200人
サイエンスラボ 科学ブロックくらぶ	18日 (日) 25日 (日)	ギャラクシティ	各10人

教 育 委 員 会 情 報 連 絡

平成28年11月30日

件 名	「きかせて子育て訪問事業」進捗状況について
所管部課名	こども支援センターげんき こども家庭支援課
内 容	<p>きかせて子育て訪問事業について、プロポーザル選定委員会で選定された事業者と、以下のとおり実施に向けて準備を進めているので情報連絡する。</p> <p>1 委託事業者</p> <p>(1) 名 称 特定非営利活動法人子育てパレット</p> <p>(2) 所在地 足立区梅島3-40-10</p> <p>(3) 代表者 三浦 昌恵</p> <p>2 今後のスケジュール</p> <p>(1) 平成28年12月1日 委託契約開始</p> <p>(2) 平成29年 1月下旬 サポーター養成研修開始</p> <p>(3) 平成29年 2月上旬 訪問事業開始</p> <p>3 その他</p> <p>平成29年2月の訪問事業開始に向けて、衛生部保健予防課と調整し対象者へ案内をしていく。</p>
今後の方針	

行事実施結果 (10月1日～10月31日)

公益財団法人足立区生涯学習振興公社

日時	行事名	時間	会場	主催別	参加人数
10/1 (土)	「読み語りのためのボイストレーニング」体験講座	10:00～12:00	生涯学習センター	主催	56名
10/5～11/2 毎(水)	「子どもと遊ぶ おりがみ教室」 全5回	10:00～11:30 10/26のみ 14:00～16:00	生涯学習センター 10/26のみ 北鹿浜小・東栗原小	主催	延95名
10/5 (水)	放課後子ども教室スタッフ研修Bコース「遊びの新発見」	10:00～12:00	生涯学習センター	主催	19名
10/9(日)	足立ジュニア吹奏楽団 あだちブラスバンドフェスティバル	① 12:00～12:15 ② 13:45～14:00	西新井文化ホール	共催	約1800名
10/10 (月・祝)	足立ジュニア吹奏楽団派遣演奏 第69回あだち区民体育大会総合開会式	9:00～10:00	総合スポーツセンター	共催	約600名
10/10 (月・祝)	足立ジュニア吹奏楽団派遣演奏 スポーツカーニバル	11:15～11:45	総合スポーツセンター	共催	約3000名
10/14 (金)	放課後子ども教室 「新任スタッフ安全管理講習会」	10:00～11:30	生涯学習センター	主催	17名
10/19 (水)	放課後子ども教室スタッフ研修Bコース「遊びの新発見」	10:00～12:00	生涯学習センター	主催	22名
10/20 (木)	小学校アウトリーチコンサート	① 9:30～10:15 ② 10:35～11:20	北鹿浜小学校	主催	52名
10/20 (木)	放課後子ども教室ボランティアのための フォロー講座	10:00～12:00	生涯学習センター	主催	23名

日時	行事名	時間	会場	主催別	参加人数
10/21 (金)	小学校アウトリーチコンサート	① 9:40~10:25 ② 10:50~11:35	東栗原小学校	主催	65名
10/22 (土)	キッズなわとびリーダー講習会	10:00~12:00	生涯学習センター	主催	30名
10/24 (月)	放課後子ども教室スタッフ研修Cコース「メンタルヘルスケア」	9:30~11:30	庁舎ホール	主催	114名
10/25 (火)	放課後子ども教室ボランティアのためのフォロー講座	10:00~12:00	生涯学習センター	主催	24名
10/25 (火)	放課後子ども教室体験プログラム「ビブリオバトルを楽しもう！」	15:30~16:00	千寿常東小	主催	14名
10/26 (水)	放課後子ども教室体験プログラム「将棋」	15:00~16:30	西新井小	主催	37名
10/28 (金)	あだちアートリンクカフェ公開講座「地域を元気に。チンドン屋がやってくる！」	19:00~20:30	生涯学習センター	主催	69名
10/29 (土)	足立ジュニア吹奏楽団派遣演奏 東京ドームシティ・ハロウィンキッズパレード2016	① 11:00~12:00 ② 14:00~15:00	東京ドームシティ アトラクション内	共催	約2000名

行事实施予定（11月1日～11月30日）

公益財団法人足立区生涯学習振興公社

日時	行事名	時間	会場	主催別	参加予定人数
11/3 (木・祝)	スポーツ指導者講習会 「高齢者対象・運動機能向上プログラム」	10:00～15:00	梅田地域学習センター	主催	30名
11/9 (水)	放課後子ども教室体験プログラム 「ミニコンサート&楽器体験」	15:00～16:00	中島根小	主催	50名
11/10 (木)	体験プログラム 「読み語りキャラバン in 東栗原保育園」	10:20～11:00	東栗原保育園	主催	50名
11/16 (水)	放課後子ども教室体験プログラム 「ミニコンサート&楽器体験」	15:00～16:00	皿沼小	主催	50名
11/16 (水)	放課後子ども教室体験プログラム 「将棋」	15:00～16:30	西新井小	主催	48名
11/16、11/30 (水)	放課後子ども教室体験プログラム 「算・数検、漢検の勉強をしよう！」	14:30～15:30	千寿双葉小学校	主催	18名
11/19 (土)	ドンドン♪フェスティバル	14:00～15:00	都市農業公園 芝生広場	主催	200名
11/25 (金)	第56回あだちアートリンクカフェ テーマ:淡路島から世界に発信するアートプロジェクト「あわじアートサーカス」	18:30～20:00	東京芸術センター	主催	30名

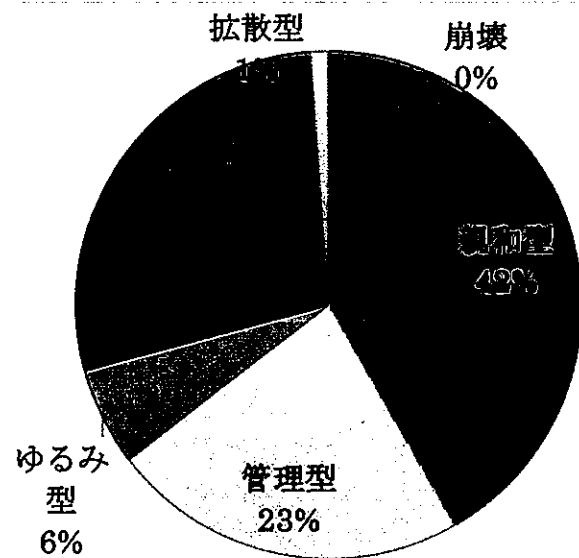
平成28年度「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査 (hyper-QU)」第1回目の結果について

1 調査の概要

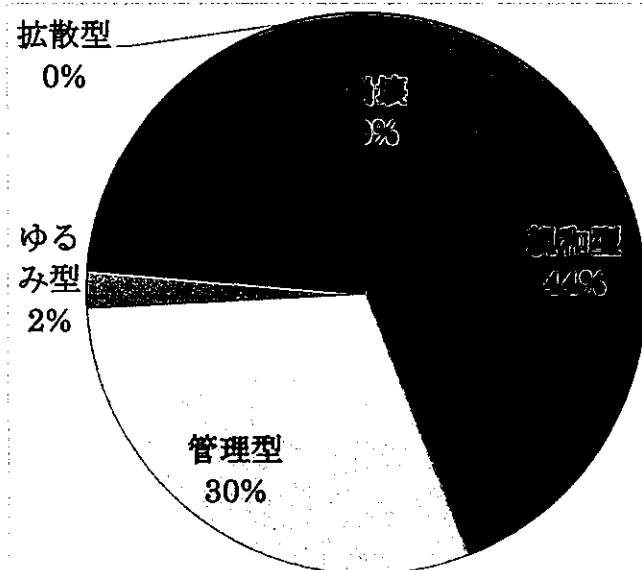
- (1) 調査日程
5月2日(月) から
6月30日(木) まで
- (2) 調査対象
区立小中学校の希望校67校で実施
対象児童生徒は14,525名
小学校44校 7,624人
中学校23校 6,901人

2 学級の型の傾向

(1) 小学校



(2) 中学校



3 結果の分析

(1) 小学校

「いごちのよいクラス」「ふだんの行動を振り返る」アンケートでは、9割以上の項目で全国平均を大きく上回っている。「やる気のあるクラスをつくる」アンケートでは、学級作りに関する項目において高い数値で推移している。

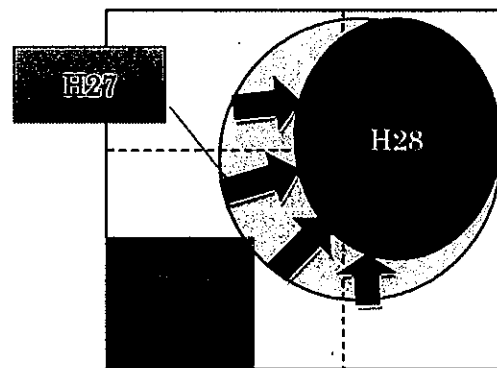
特に、望ましい方向にある項目 (全国平均より15%以上、上回った項目)

- ・クラスの人は声をかけたり親切にしてくれる(7割)
- ・クラスにはいい人だな、すごいと思う人がいる(9割)
- ・いろいろな活動に取り組もうとする人が多い(7割)
- ・みんなで決めたことにはしたがっている(6割)
- ・何かを頼むとき、迷惑がかからないか考えている(6割)

特に、低い項目

- ・勉強ができなかったことができるとうれしい(全国平均より△6%)

小学校6年生のH27からH28の変容について



昨年度11月の調査で非承認・不満足・侵害認知群に散らばっていた児童が、個別の指導によって望ましい方向に移ってきている。昨年度と満足群の割合はあまり変化がないが、項目別では大きな効果があった。

大きく向上が見られた項目

- ・クラスはいろいろな活動にまともに取り組んでいる
- ・運動や勉強でクラスの人から認められることがある
- ・友達の気持ちを考えながら話をしている
- ・その他多くの項目で向上した

(2) 中学校

「やる気のあるクラスをつくる」「ふだんの行動を振り返る」アンケートでは、9割以上の項目で全国平均を上回っている。「いごちのよいクラスをつくる」アンケートでは、侵害度を表す項目で、全国の割合の4分の1程度の生徒数であった。

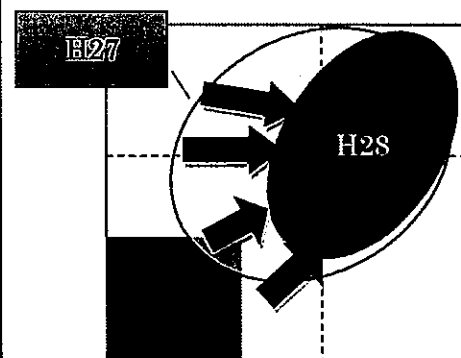
特に、望ましい方向にある項目 (全国平均より15%以上、上回った項目)

- ・学校内に気軽に話せる友達がいる(9割)
- ・学校内に本音や悩みを話せる友達がいる(6割)
- ・自分がしてもらいたいことを友達にもしてあげている(5割)
- ・自分の係の仕事は、最後までやり遂げている(7割)

特に、低い項目

- ・得意な教科や好きな教科がある(全国平均+3%)
- ・やりたい職業や興味をもっている職業がある(全国平均±0%)

中学校2年生のH27からH28の変容について



昨年度11月の調査で不満足・侵害認知群に散らばっていた生徒が、個別の指導によって望ましい方向に移ってきている。昨年度と満足群の割合はあまり変化がないが、一部の項目で効果があった。

大きく向上が見られた項目

- ・友達の気持ちを考えながら話をしている
- ・わからないことがある時、友達や先生に聞いている
- ・クラスや部活でからかわれたりばかにされる【大きく減少】

○成果と●課題【小学校】

- 全国平均を大きく上回った満足度を示している。
- 特に「よいクラスにしよう」「周りの人のことを考える」ことについては、意識が高いことがわかる。
- 「からかわれる」「ひやかされる」「無視される」などの項目が、全国の割合の半分程度であり、昨年度からの比較では、さらに減少している。
- 学習意欲にかかわる項目が、全国平均を下回るか、全国平均レベルであり、他の項目と比べると10ポイント以上下回っている。
- 行動面の項目で、「自分から遊びに誘う」ことができない児童が多い傾向が見られる。

○成果と●課題【中学校】

- 「友人との関係」「教師との関係」「学級との関係」について、全国平均を上回っている。
- 「学習意欲」については、中学1年生はかなり意識が高いことがわかった。
- 特徴としては、友人との関係の項目が8割から9割の生徒が肯定的に捉えている。
- 「からかわれる」「ひやかされる」「無視される」などの項目は、全国の割合の4分の1程度であり、昨年度からの比較では、大きく減少している。
- 学級の型についても、親和型、管理型で7割以上を占めており、落ち着いた学習環境が整っている学級が多い。
- 学習意欲・進路関係にかかわる項目が、全国平均を下回るか、全国平均レベルである。